

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2016年3月1日
(No. 81・春は花吹雪とともに号)

2016
*
3月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (9)

柳瀬川の河童伝説「曼荼羅淵」

志木の宝幢寺には河童伝説が伝わっていますが、淵の森から約2kmさかのぼった柳瀬川左岸の持明院(所沢)にも、もう一つの河童伝説「河童の詫び証文」が伝わっています。河童がいたという曼荼羅淵(まんだらぶち)は持明院の15m程の垂直な崖(上は樹林と竹藪、下はコンクリート擁壁)の下で、柳瀬川が大きく蛇行し上流には天然河岸が残り、蛇行の内側は調節池になっています。残念ながら川も調節池もフェンスで囲まれ、川を見ることができません。写真の手前が調節池、中央の堤防の裏が曼荼羅淵です。

(天田 眞)

1月10日(日)

ガンカモ類の生態調査

埼玉県生態系保護協会主催の「ガンカモ類の生態調査」に、20年前のエコシティ志木設立当初から調査協力をしています。今年は風もない晴天に恵まれ、9名の参加者で楽しく調査ができました。残念なことに、カモ類は以前のように流域全般で見られるのではなく、所々で数羽から十数羽が固まって見られる状態でした。その代りカワセミをはじめ、カモ以外の野鳥をよく観察できました。

カモ類は、2000年以前は8～9種類1,000羽位いましたが、2000年を境に種類・数ともに減り始め、ここ8年間は4～5種類・200羽台です。

減少の原因はいろいろあると思いますが、釣り人の増加、毎年冬場の河川敷工事、高橋と栄橋の間の商業施設やマンション建設も影響しているかも知れません。

県内全体のカモは、16種31,869羽で、昨年17種39,265羽からは1種類減少し、数で7,396羽減でした。



調査風景

柳瀬川では、志木大橋から新河岸川の合流点までで、カモは5種236羽で、昨年と種類は1種類増えて、数は62羽減りました。

内訳は次のとおりです。()は昨年

ヒドリガモ	121羽 (83羽)
オナガガモ	32羽 (43羽)
コガモ	66羽 (142羽)
カルガモ	16羽 (30羽)
マガモ	0羽 (0羽)
ハシビロガモ	1羽 (0羽)

(山崎光久)

2月7日(日) 冬の野鳥観察会に参加して

いつまでも見ていたい光景でした

2月7日「冬の野鳥観察会」に参加しました。

柳瀬川沿いの土手には前夜の雪がまだ残っている所もあり、寒い日でしたがお天気が良く、40名位の参加がありました。

初めに鳥の見分け方に、カラス・ハト・ヒヨドリ・スズメ等「ものさし鳥」の説明があり、いつも見慣れている鳥と比較して見ることに納得しました。

スタッフの方々は重いスコープを担ぎ、鳥を見つけると素早くレンズの中に入れてくださり間近に見ることができました。

観察のベテランは大変目も良いと感じました。鉄塔の上にチョウゲンボウが背を向けて止まっていました。こちらに顔を見せてくれないかと待っていましたが、突然一直線に下降して行きました。何か獲物をみつけたのでしょうか。



左から、アオサギ・コサギ・ダイサギ [写真：青木明雄]

水谷田んぼ付近ではスコープで富士山を見ることができました。肉眼で見る富士山と違い迫力のある富士山でした。

市役所近くまで来るとアオサギ・コサギ・ダイサギが日向ぼっこをしているように三羽並んでいました。その先にはカワセミまで見ることができました。

いつまでも見ていたい光景でした。

きれいな川に魚が住み、藻が茂り、昆虫が住みそして野鳥が集まる。この光景が、この先ももっと見られる地であって欲しいと思いました。

(小倉禊子)

2015年 柳瀬川の野鳥集計

9月は雨天のため中止しました。また、一部調査日が異なるデータを補足している月もあります。昨年に比べ出現種が47種から41種に減少していますが、アオジ・オオジュリンといった草原の鳥やトビ・ハヤブサなどの猛禽類に、たまたまなのか、調査日に会えなかったのも一因です。(毛利)

●調査方法

- 1) 柳瀬川生き物ウォッチング時に調査・記録
原則第3日曜日午前(野鳥は1997年6月より記録)
- 2) 一定の速度で歩きながら出現した野鳥の種名・数を記録
- 3) 主なコース：
富士見橋 → 志木中学校前 → 高橋 → 水谷田んぼ

*主催=NPO法人エコシティ志木/埼玉県生態系保護協会志木支部
*記録=山崎光久

	鳥名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	カイツブリ	1	1	1	0	0	0	0	0	-	0	3	6
2	カワウ	4	2	1	1	0	2	0	2	-	0	0	7
3	ヒドリガモ	52	14	16	1	0	0	0	0	-	32	65	62
4	コガモ	133	88	31	7	0	0	0	0	-	0	64	45
5	カルガモ	11	14	15	9	17	19	30	28	-	24	9	25
6	オナガガモ	4	2	0	0	0	0	0	0	-	0	0	3
7	アオサギ	3	1	0	1	4	0	5	3	-	4	2	4
8	ダイサギ	2	1	3	0	3	0	5	2	-	4	0	1
9	コサギ	0	3	3	3	0	0	0	6	-	3	4	3
10	クイナ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	1
11	オオバン	3	2	2	0	0	0	0	0	-	0	0	6
12	セグロカモメ	0	0	1	0	0	0	0	0	-	0	0	0
13	イカルチドリ	10	5	0	0	0	0	0	23	-	8	15	2
14	コチドリ	0	0	0	0	0	2	2	0	-	0	0	0
15	イソシギ	2	3	2	0	1	0	1	4	-	4	1	5
16	タシギ	2	0	0	1	0	0	0	0	-	0	0	1
17	ノスリ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	1
18	キジ	0	1	0	2	2	10	0	0	-	1	1	0
19	キジバト	5	16	9	5	3	6	1	0	-	4	4	12
20	カワセミ	0	0	0	0	1	0	1	0	-	1	0	1
21	コゲラ	0	0	1	0	0	1	0	1	-	0	0	0
22	ヒバリ	0	1	6	2	4	3	2	0	-	3	1	0
23	ツバメ	0	0	0	14	19	15	13	12	-	0	0	0
24	キセキレイ	2	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0
25	ハクセキレイ	14	9	9	5	6	2	2	3	-	6	23	17
26	セグロセキレイ	7	5	2	0	0	0	0	1	-	2	1	7
27	タヒバリ	6	11	12	0	0	0	0	0	-	0	5	6
28	ヒヨドリ	10	2	7	2	4	1	0	0	-	18	3	17
29	モズ	1	0	1	0	3	0	0	1	-	3	1	3
30	ジョウビタキ	0	2	1	0	0	0	0	0	-	0	0	1
31	ツグミ	13	13	15	0	0	0	0	0	-	0	0	1
32	オオヨシキリ	0	0	0	0	12	9	1	2	-	0	0	0
33	セッカ	0	0	0	0	0	0	0	2	-	0	0	0
34	シジュウカラ	0	0	1	0	1	0	0	0	-	0	0	5
35	カシラダカ	8	35	10	0	0	0	0	0	-	0	0	3
36	カワラヒワ	9	23	25	7	7	5	7	1	-	15	6	25
37	シメ	0	0	0	12	0	0	0	0	-	0	0	0
38	スズメ	152	87	112	27	29	31	48	59	-	105	63	103
39	ムクドリ	117	26	57	18	51	43	46	40	-	0	0	9
40	ハシボソガラス	2	4	5	3	1	0	5	4	-	1	2	0
41	ハシブトガラス	1	1	2	4	6	1	0	4	-	8	3	10
	ドバト	40	0	0	0	0	5	5	0	-	3	0	0
	アイガモ・アヒル	0	1	0	0	0	2	0	1	-	0	0	0

小平市内の玉川上水分水について

天田 眞

玉川上水の分水の野火止用水は、新座から志木にかけて、さらに多くの分水に分かれていました。現在、野火止用水の本流には川越街道までは下水処理水が流れていますが、志木では水が無くなって50年程もたち、分水路の痕跡も殆どわからなくなっています。

一方、玉川上水には今でも分水が流れているところがあります。下水処理水が流れる玉川上水下流部と野火止用水に挟まれた小平市では、玉川上水に沿った新堀用水と、そこから分岐し、青梅街道を挟み両側を流れる小川用水を中心に、これらから分かれた多くの分水路網が残っており、しかも、これらの分水は羽村で取水した本物の多摩川の水です。小平市では用水路活用計画を策定し、用水路条例を定め、保全や街づくりに活用しています。

エコシティ志木では「野火止用水ぶらり散歩」として、志木から野火止用水・玉川上水をさかのぼり、羽村の取水堰まで4回で歩く企画が続けていますが、昨年11月の第3回では玉川上水に加えて、小川用水と新堀用水を歩きました。街なかを流れる細い分水は、かつて志木を流れていた分水の姿を思い起こさせるものでした。

玉川上水は1654年に完成しましたが、狭山丘陵のふもとの村の小川九郎兵衛は新田開発を願い出て分水を許され、1656年に青梅街道の両側に用水を引き、小川村ができました。図にみられるように、全ての家が平等に用水を使えるように短冊形地割になっています。新堀用水は玉川上水の小平監視所で取水し、しばらくは地下を流れますが、これは胎内堀と呼ばれ、数か所の縦穴をつなぐように素掘りのトンネルが掘られています。



家々の間を流れる小川用水



道路沿いの整備された小川用水



小川用水の南北分岐水門



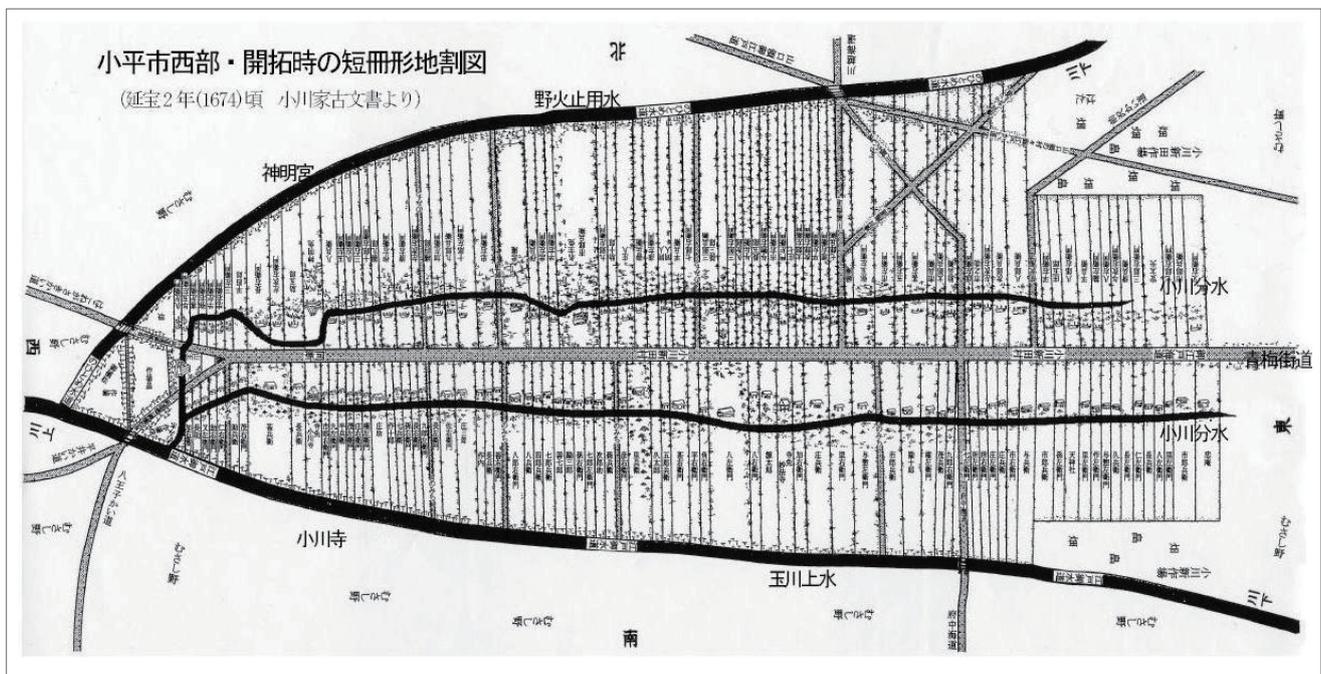
遊歩道として整備された小川用水彫刻の谷緑道



新堀用水の胎内堀（素掘りのトンネル）の出口



胎内堀につながっている縦穴



小川村開拓時の短冊形地割図（中央が青梅街道で両側に小川用水が流れる。外側の太い線は玉川上水と野火止用水）
玉川上水ワンポイントガイド（小平・玉川上水再々発見の会）より引用

11月23日（日）野火止用水ぶらり散歩（3） 新小平駅～玉川上水～拝島へ



小川用水の南北分岐点で【写真：青木明雄】

今回は、新小平駅～玉川上水～拝島へ。始めは青梅街道を西へ歩いた。

まず小川寺の境内の水路から小川用水南北分岐点へ。

古い街道沿いは大きな屋敷と屋敷林があり、彫刻の谷緑道ではブロンズ像を見ながら新堀用水・小川用水分岐水門へ。ここから本流の玉川上水の左岸側に入り、深く切り立った自然そのままの武

蔵野の雑木林のある本流と新堀用水胎内堀（たぬき堀とも呼ばれ、縦穴から流れを見ることができます）を歩き、行き着いたところは前回終点の玉川上水下流部の下水処理水放流口であった。

小平監視所を過ぎるとよく整備され、川幅が広く水量がある。両岸の大木の根が張り武蔵野の面影を残している道を、昼食場所となる御影橋公園へと歩いた。対岸にカワセミを発見。

この場所だけがのんびりでき、体力の回復となった。途中で玉川上水が見えなくなった。ここが、サイフォンの原理による「伏せ越し」で玉川上水が残堀川の下に潜る場所だった。

松中橋の上流に砂川分水・柴崎分水の取水口。右岸のゴルフ場沿いの手入れがされていない木々に秋の紅葉を見ながら、やっと平和橋下流右岸の拝島分水の取水口。その下流左岸に殿ヶ谷分水取水口跡を見て、時間通りに拝島駅に到着。今回も見ることがたくさんあり有意義であった。次回も楽しみにしています。（山口美智江）



いきいきサロンで、ボランティアの方々が子どもたちと交流するようす(2000年9月)

初期のおもな活動 (続き)

NPO法人エコシティ志木代表理事 天田 眞

前号では初期の水と緑部会の活動について取り上げましたが、今号ではその他の活動を振り返ります。

● ゴミとエネルギー部会

20年前の当会発足当時は、現在のように廃棄物のリサイクル・リユース等の取り組みが進まず、減量が大きなテーマになっていました。埼玉エコリサイクル連絡会等で活動し、ゴミ問題に大変詳しくあった部会長の園田真見子さんを中心に、ごみ減量に向けて、ワークショップや講師を招いての学習を精力的に続けていました。ごみ減量のために市民に何ができるか。リユース・リサイクルの推進、家庭ゴミの多くを占める生ごみのリサイクル(堆肥化)、落ち葉等の未利用有機物の資源化・有効利用等の議論。会員の家庭ごみの発生量調査も行いました。また当時は、焼却施設からのダイオキシンの排出、産廃処理業者の劣悪な焼却炉や野焼きの問題等が大きな社会問題になっていた時期でもあり、これらも学習テーマになっています。こうした学習成果は98年3月発行の『市民がつくる志木市の環境プラン』の第3章ごみダイエットプランや、第7章おちば公社プランに結実されています。また、99年3月策定の『志木市環境基本計画』にも落ち葉公社の提案などが取り上げられています。

● 保健・医療・福祉部会(後に保健・福祉部会に改名)

エコシティ志木は環境まちづくり団体としてスタートしています。保健・医療・福祉は一見環境とは関連ないように見えるかもしれませんが、これらは社会構成の基本の一つであり、環境の保全と共に健全なまちづくりには欠かすことのできない課題であるとの認識から、この分野も活動に含めてきました。

当時は介護保険制度が始まる前で(介護保険制度は2000年4月より)、その開始に向けて「住みなれた地域で暮らすために」といったテーマでワークショップ・学習会を続け、地域福祉・高齢者福祉・介護保険制度について、また、バリアフリーのまちづくり等についても学習を行い、『環境プラン』の第4章福祉のまちプランにまとめられています。

● 介護保険関連サービス基盤整備事業についての要望書～いきいきサロン誕生へ

98年12月28日、志木市長あてに、志木二小の余裕教室を活用した高齢者向け福祉施設の設置を求める要望書を提出しました。これは、当会の活動でいち早く入手した国・県の事業を利用した

提案ですが、年末年始のあわただしい中で具体化され、『志木二小教育福祉ふれあい館』が設置され、99年12月に高齢者の集いの場所『いきいきサロン』が誕生しました。公募のボランティアにより運営され、地域に定着して現在も続いています。

さて、発足時の目標だった『環境プラン』や『志木市環境基本計画』の策定が99年までに終わり、2000年ごろからは新たな動きが始まってきました。

● NPO 法人化の検討

2000年秋の通信に「NPO 法人化の検討を始めます」という記事が掲載されています。当時の運営委員会等の会議で法人化をめざす方向性が了承され、以後の通信では毎号「NPO 法人とは？」「法人格取得のメリット・デメリットは？」等の記事を載せ、会員へ周知・啓発を続けました。その結果、2002年4月のNPO 法人設立総会につながりました。

● バリアフリーチェック

2000年9月と11月の2回、日常的に車椅子を使っている平澤佳奈さんの指導のもと、市役所から志木駅まで、車椅子を使って道路両側のバリアフリー度の点検を行いました。また、市役所では白杖とアイマスクでの歩行体験も行いました。

● 水辺の生き物調べ隊

2000年9月に、柳瀬川で子ども向けの魚捕りイベントを初めて開催し、その後の夏のイベントや定期的な魚類調査、出前水族館等につながりました。魚の捕り方は黒目川で活動しているグループの指導を受けました。

● 環境まちづくりフォーラム

2000年11月の2日間、エコ・コミュニケーションセンター（エコシティ志木設立のきっかけとなった環境大学で講師を務めた森良さんが代表）等が主催するフォーラムが志木市で開催されました。全国の環境まちづくりの事例報告や、分科会に分かれて、志木の街や川でのフィール

ドワークとワークショップを行い、全国からの参加者と共に語り合い、その後の活動のヒントも得られました。このときの分科会の一つに「志木をフィールドとしたエコミュージアムプランづくり」があり、後の『河童のつづら』プロジェクトの立ち上げにつながりました。

● ふるさとづくり賞を受賞

2000年には、エコシティ志木の成立過程と活動成果が評価され、彩の国コミュニティ協議会から『ふるさとづくり賞』の県審査で優秀賞を受賞し中央審査にノミネートされ、中央審査では『振興奨励賞』を受賞しました。

● 志木まるごと博物館『河童のつづら』

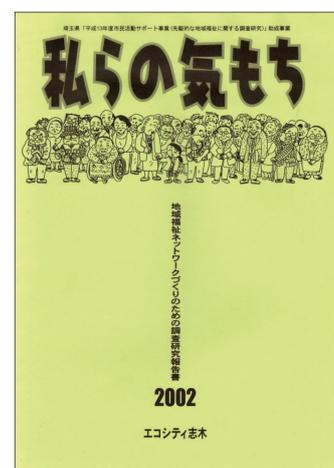
2001年度の通信にはNPO 法人化の記事と共に、エコミュージアム構想や志木のお宝についての記事が載るようになり、2002年秋に『河童のつづら』の名称が決まり、正式にプロジェクトが立ち上がりました。

● 地域福祉ネットワークづくりのための調査研究

2001年度に、県の助成により実施した地域福祉に関するアンケート調査や講演・ワークショップ等の学習会で、後の志木市地域福祉計画策定を見据えたものです。福祉施設利用者・ボランティア団体員・民生委員・町内会長等を対象にアンケートを行い、2002年3月に報告書『私らの気持ち』を発行しました。



環境まちづくりフォーラム (2000年11月) の報告書 (エコ・コミュニケーションセンター発行)



地域福祉ネットワークづくりのための調査研究報告書『私らの気持ち』 (2002年3月)

12月13日(土) 第11回川でつながる発表会 [主催: 新河岸川流域川づくり連絡会]

不老川周辺まちあるき～交流会へ

会場は狭山市立入曽公民館。午前中は不老川周辺のまちあるきです。不老川は、東京都瑞穂町を水源として川越市で新河岸川に合流しています。もともと自己水量が少なく生活雑排水が多かったため、かつては日本一汚い川でした。水質改善と水量確保のため、川越市にある新河岸川上流水環境センターから還流水をポンプ圧送しています。大量の水が流れ込んでいるところを見ることができました。一方で、大雨の時には一気に増水し氾濫することがあり、護岸が壊れ、まだ土嚢が積まれているところがありました。入間基地脇には広大な調節池があり、普段は、多目的広場として、テニス・ソフトボールなどに活用されていました。

午後は、狭山市立御狩場小学校、明法中学・高等学校、法政大学水文地理学研究室、早稲田大学理工学部からの発表が行われました。交流会の中



で、「水の自分誌」から「流域の水環境誌」へというテーマがあり、私の体験も記録しておきました。エコシティ志木の活動パネルも、参加者の皆さんに見ていただきました。(青木明雄)

志木市より

「平成27年度社会教育団体補助金」を受けました



ベストを着用したスタッフと幟旗もいっしょに記念撮影

当会では、平成27年度事業「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦」に対して志木市教育委員会生涯学習課より「社会教育団体補助金」の助成36,000円を受けました。

お陰様で、市内小学校の全児童に配布したチラシ4,000枚や、横断幕1枚、幟旗3本、スタッフ用ベスト15着、無料配布用の『志木ぶらり散歩マップ』増刷1,000部などを制作するこ



横断幕



『志木ぶらり散歩マップ』
※まだ残部がありますので、希望者にご連絡ください(無料)



イベント用チラシ

とができ、事業を盛会のうちに開催することができ、また平成28年度事業展開に向けても大きなステップアップと自信となりました。ここに紙面を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。(毛利将範)

● 志木 自然インフォメーション ●

生き物情報は→ ファクス 048-471-4275 e-mail : qwj11624 @ nifty.com (毛利) へ
ホームページ「発見!! 街の自然」<http://kappa-no.net/sizen-info.html>

- ①ノスリ(1) → 12月20日(日) 水谷田んぼ(富士見市) で複数のカラスからモビング(疑似攻撃)を受けていた[毛利将範]
- ②ハシブトガラス(約 60) → 1月10日(日) ガンカモ類の生態調査で、水谷田んぼの送電線鉄塔に。こんなに多くのカラスの群れを見るのは久しぶり[毛利]
- ③タシギ(1) → 1月17日(日) 柳瀬川生き物ウォッチング、水谷田んぼで[毛利]
- ④雪の水谷田んぼ → 1月19日(火) 先日18日(月) の大雪の翌日。水谷田んぼでは、
⑤ホオアカ、⑥ホオジロ、⑦カシラダカ、オオジュリン、タヒバリ、ツグミ など、
普段は草の陰に隠れている野鳥が姿を現しました[山崎光久]
- ⑧トビ・チョウゲンボウ(各1) → 2月21日(日) 柳瀬川生き物ウォッチングで[毛利]
- ⑨カワセミ(3) → 2月21日(日) 柳瀬川生き物ウォッチングで。写真は水谷田んぼ水路の個体[青木明雄]



① ノスリ(右)とハシブトガラス [毛利]



③ タシギ [毛利]



⑤ ホオアカ [山崎]



⑥ ホオジロ [山崎]



⑦ カシラダカ [山崎]



⑧ トビ [毛利]



⑨ カワセミ [青木]

環境 ひとくちメモ (39) 伊藤 智明

「シカ害」

現在、シカによる被害「シカ害」が全国的な問題となっています。森林被害全体の約8割を占めており、造林地の食害や樹木の剥皮による天然林の劣化、下層植生の食害、踏みつけによる土壌の流出など、国土の保全、水源涵養等森林が持つ公益的機能の低下や森林生態系に大きな影響を与えています。

森林生態系の影響には、樹木や希少植物の減少だけでなく、チョウ類の食草の減少によるチョウ類の減少、シカに付いたヒルやダニなどがシカの分布拡大とともに広がっていることなども起きています。

シカは繁殖力が高く、メスジカは毎年妊娠するといわれており、捕獲しないと年率約20%で増加し、4～5年で個体数は倍増するといわれていま



す。

また、シカが増えた背景には、天敵であるオオカミの絶滅、狩猟者の高齢化及び狩猟者数の減少、積雪量の減少などがあるといわれています。

シカ害の対策としては、シャープシューティング等様々な新技術等を組み合わせた新たな取り組みが行われています。また、ジビエ料理の普及などにより、食料資源としてのシカ捕獲も注目されています。

【参考】林野庁ホームページ「野生鳥獣による森林被害」<http://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/tyouju.html>

【画像】北海道立総合研究機構林業試験場「エゾシカの群れによる食害(北海道えりも町)」

☆会員状況

2015年度更新済み(2月20日現在)

正会員(個人) 48

正会員(団体) 2

賛助会員 2



★本会の財政基盤は、会員の方の年会費です。

★今年度も継続更新をよろしくをお願いします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している団体・ネットワーク・

登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川広域景観づくり連絡会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

埼玉県生態系保護協会志木支部

志木のまち案内人の会

志木市放課後子ども教室りんくす

グループぼんぼこ

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

「いきもの図鑑」プロジェクトの近況

(仮称)『いきもの図鑑』は、市内散策時に携行し、見つけた生き物の名前を調べる時に便利なものを目指しています。志木市のいきもの図鑑として相応しいものにしたいという事で市内の自然環境を踏まえて記載して、編集することになっています。

その為に、「いろは親水公園」から始め、「ニュータウン」、「荒川堤外と宗岡の荒川沿い」、「西原ふれあい第三公園及び周辺」、「上宗岡周辺」、「柳瀬川～柏町・本町～志木駅」、「下宗岡周辺」の7回に分けて、ある程度網羅的に見て回りました。

チーム毎に調査のポイントが異なるため、夫々が目に留まるものや観察の時間も異なり、全体の行動としては、ややまとまりに欠ける行動となりましたが、夫々に得るものは多かったと思います。

1月からは、勉強会を兼ねた記載内容のレビューを行っており、1チーム3ヵ月の日程で進めています。最初の3ヵ月はCチーム(リーダー:山崎)で、トンボ・チョウ・シダが終わり、草本に取り掛かっています。

全チームとも不足している写真や全体像が分かりにくい等の理由から撮りなおしが必要なものもかなりあり、タイミングを逃さず、写真を撮ることが大事なポイントの一つとなってきました。

(青木明雄)



ハチの仲間は種類が多く、今までも寄生バチや虫こぶをつくるタマバチのような面白い生態を紹介しましたが、今回は、幼虫の餌になる虫を捕まえて麻酔をし、そこに産卵する「狩りバチ」を取り上げます。種により、餌にする虫の種類やそれを閉じ込めて産卵する育房の作り方が違います。

ツチバチの仲間（ツチバチ科）は、雌バチが土にもぐり、土の中にあるコガネムシ類の幼虫に麻酔をかけ、そこに卵を産みます。産まれた幼虫はコガネムシの幼虫を食べて育ち、羽化して地上に出てきます。

ドロバチの仲間（ドロバチ科）は竹筒などを利用し、その天井に産卵した後、ハマキガやメイガの幼虫（イモムシ）を狩ってきて閉じ込め、泥壁で密閉します。

クロアナバチ（アナバチ科）は砂地の地面に深い穴を掘り育房をつくり、キリギリスの

仲間を狩ってきて閉じ込め産卵し、入口を塞ぎます。隣接して、使わない数個の浅い穴（偽抗）を掘ります。

スズバチ（ドロバチ科）は木の枝や石造物や壁等に土を運んで複数の育房をつくり、それぞれに餌のアオムシ閉じ込め産卵します。最後に全体を土で覆うように固めますが、土には砂粒が混じっています。成虫はそれぞれ穴をあけて出てきます。

トックリバチの仲間（ドロバチ科）は草や木の枝に、土を運んで薄い壁の徳利型の育房を一つ作り、アオムシを閉じ込め産卵して口を塞ぎます。成虫は徳利の口ではなく側面に穴をあけて出ます。

他にクモを狩るクモバチ科（以前はベッコウバチ科と呼ばれた）の仲間、アオムシを狩るアナバチ科のジガバチの仲間等、狩りバチにはいろいろな種類がいます。



キオビツチバチ



キンケハラナガツチバチ



オオフタオビドロバチ



砂粒を運び出し穴を掘るクロアナバチ



並んでいるクロアナバチの巣穴



キリギリスの仲間を運ぶクロアナバチ



スズバチ



アオキの枝につくられたスズバチの巣



トックリバチの巣 (ミカドトックリバチ?)



地球と日本の自然 (20)

高度成長期の東京湾

加藤 健二

前号では、徳川幕府による江戸の大都市への開発（河川改修・東京湾埋め立てなど）について紹介しました。この都市インフラにより、江戸は世界的にも少ないと言われる100万人を超える大都市となりました。

しかし急激な都市形成には人口増とインフラ間のひずみが大きく大火の頻発、また自然災害の地震や火山爆発にも見舞われました。それでも当時ヨーロッパの大都市に発生したペスト・コレラなどの感染被害は最小限ですんでいます。これは衛生面で玉川上水・神田上水などの上水管理、また下水では汚水を分離する日本的なフン尿の処理に加え、その肥料としての販売、さらに炊飯のための水売り商売もあったようです。

さて時代は飛びますが、明治政府にかわり、急速な近代化・工業化への道を歩みます。

長い鎖国による諸外国との遅れを取り戻すため、殖産興業・富国繁栄が叫ばれ、さらには戦争への時代に突入してしまいました。時代を急ぎますが、太平洋戦争後は戦後復興から高度成長・列島改造へと進むこととなり急速な経済発展がなされました。

この過程はほぼ30年以上、自然との共存はまったく顧みらず、本題の焦点である東京湾の水質は悪化の一途をたどってしまったのです。有力河川と東京湾は死に瀕し、工業排水と家庭排水のいわ



ゆるゴミ捨て場としての役割に変えさせられてしまいました。

それまでの東京湾は豊穡な漁場であり、海産種類や漁獲量も多く、大都市東京の食と自然源泉の海の特徴が発揮されていたのです。

これらの水質汚濁の状況は皆さま記憶のあるところと思いますので、地形的な面で見えていきますと、海岸線の埋め立てにより、自然浄化作用をもった干潟や藻場の消滅、および大型船の航路確保のため海底掘削や棧橋確保の直立護岸などが、複合して生物による自然回復力を消失させていきました。ここで自然海岸線の長さを概略比較してみると、昭和30年時点で162kmあったものが平成14年度には39kmと約4分の1に減少しています。さらに埋め立て面積は東京湾海面（内湾）の2割に及んでいると言われます。これら水質汚染と自然回復力欠如の両面で、汚れた東京湾の回復には多大の時間がかかることとなりました。さて今回は東京湾の現状について見ていきたいと思います。（写真は現在の京浜工業地区の1場面です）

編集後記

◇1月18日、関東平野にも突然の大雪が降りました。◇志木の西原斜面林では雪の重みで木の枝が落下する被害があり、また一方で、水谷田んぼでは、普段は草陰に隠れてなかなか姿を見せない鳥たちが雪の上に姿を現してくれたようです。◇本誌「自然インフォメーション」や当会ブログにそのときの様子が紹介されています。（梟）

エコシティ志木通信

第81号 2016年3月1日

〈発行〉

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338（天田眞）

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com



イベントカレンダー

だれでも
参加できるよ!



2016年

3月→6月



「野火止水ぶらり散歩」(昨年11月23日)のようす <写真:青木明雄>

親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人……

会員募集中



■年会費■

正会員 個人 2,400円 団体 5,000円

賛助会員 1口 5,000円

■入会方法■ 郵便振替等で年会費を納入してください
<振替番号>00510-4-13225 <加入者名>エコシティ志木

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、申込不要・参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
- 会員には毎月メール及びハガキ等で、別途行事案内をしています。



■ボランティア活動に参加しよう

◆斜面林の手入れ（場所は市内の2か所です）

- 【時間】9時30分～11時30分（雨天中止）
- 【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）
あれば剪定用ハサミ・ノコギリ
- 【主催】NPO法人エコシティ志木
- 【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部&志木市都市計画課
- 【問合せ】048-471-1338（天田）



<西原ふれあい第三公園>

- 【日程】3月6日（日）・26日（土）/4月10日（日）、30日（土）
5月7日（土）、28日（土）/6月12日（日）、25日（土）
- 【集合】9時30分に東上線側入り口の坂を登ったところ
- 【内容】公園の清掃・下草刈り・保全等の作業を行います。

<いろは親水公園>

- 【日程】3月19日（土）/4月24日（日）
5月22日（日）/6月26日（日）
- 【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天中止）
- 【集合】9時30分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋
- 【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、
ごみ拾い・下草刈り等の作業を行います。



◆カヤネズミ原っぱ環境応援作戦 2016

～いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」の保全作業～

- 【日程】5月1日（日）
- 【時間】9時～11時
- 【集合】富士下橋左岸に9時集合
- 【内容】ヨシ・オギ群落保全地域の外来植物状況観察と
外来植物の抜き取り
- 【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）水筒、タオルなど
- 【主催】NPO法人エコシティ志木
- 【問合せ】080-3154-7056（毛利）



■調べてみよう

◆柳瀬川生き物ウォッチング

【日程】3月13日(日)/4月16日(土)、5月15日(日)/6月19日(日)

【時間】いずれも9時~12時(雨天中止)

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手(志木市柏町3-2-2)

【内容】※最初に、志木中前で河原のゴミ拾いをします。

柳瀬川と水谷田んぼの約4kmを歩き、生き物の観察を行います。

【持物】双眼鏡、あれば図鑑

【費用】200円/人(会員・中学生以下は無料)

【主催】NPO法人エコシティ志木&埼玉県生態系保護協会志木支部

【問合せ】048-471-1338(天田)



◆身近な川の一斉水質調査

【日時】6月5日(日) 9時~12時30分(小雨決行)

【集合】9時に志木市役所駐車場(志木市中宗岡1-1-1)

【内容】市内8ヶ所の水を採取し、パックテスト等で水質を測定します。

新河岸川水系約250ヶ所、全国約5,000ヶ所と連携した調査です。

【主催】NPO法人エコシティ志木

新河岸川水系水環境連絡会、全国水環境マップ実行委員会

【問合せ】048-471-1338(天田)



■自然と文化を楽しもう

◆野火止用水ぶらり散歩「第4回」 ~玉川上水と羽村取水堰~

【日時】3月20日(日) 8時20分~15時30分(雨天時は中止)

【集合】8時20分に武蔵野線北朝霞駅改札前集合

8時33分発府中本町行に乗車、

西国分寺・立川乗換で9時22分拝島駅着

【内容】拝島駅から玉川上水に沿って羽村取水堰まで歩き、
羽村市郷土博物館も見学します(解散は羽村駅)

【持物】弁当、飲み物、レジャーシート、歩きやすい服装

【費用】300円/人(会員100円/人、中学生以下は無料)

【主催】NPO法人エコシティ志木

【問合せ】048-471-1338(天田)



◆志木の自然観察(春)「五感で感じる川のまち志木」

【日時】4月17日(日) 9時~12時頃(雨天中止)

【集合】9時に東武東上線「柳瀬川駅」サミット前の円形広場

【内容】柳瀬川の志木大橋と富士見橋の間を一周して観察を行ないます。

【持物】筆記用具、あればルーペ、図鑑

【費用】200円/人(会員・中学生以下は無料)

【主催】NPO法人エコシティ志木&埼玉県生態系保護協会 志木支部

【後援】志木市教育委員会 生涯学習課

【問合せ】090-9025-9725(加藤)



活動記録 (2015年11月~2016年2月)

◆2015年11月◆

- 23日(月) 野火止用水ぶらり散歩(3)玉川上水と分水
- 27日(金) エコシティ志木通信印刷発行
- 28日(土) 新河岸川流域川づくり懇談会(埼玉県)
- 29日(日) 志木市民まつり協力

◆12月◆

- 2日(水) 宗岡三小総合学習(柳瀬川の自然) 授業
- 5日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 5日(土) (仮)志木いきもの図鑑推進会議
- 6日(日) (仮)志木いきもの図鑑現地調査
- 13日(日) 川でつながる発表会(新河岸川川づくり連絡会)
- 13日(日) (仮)志木いきもの図鑑全体会議
- 14日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 16日(水) エコシティ志木広報部会
- 20日(日) 柳瀬川生き物ウォッチング
- 20日(日) エコシティ志木定例運営会議
- 24日(木) 志木 NPO 法人連絡会議
- 26日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 27日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業

◆2016年1月◆

- 9日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 10日(日) ガンカモ調査(生態系保護協会に協力)
- 17日(日) 柳瀬川生き物ウォッチング
- 19日(火) (仮)志木いきもの図鑑推進会議
- 20日(水) 志木四小総合学習(柳瀬川の自然) 発表会
- 20日(水) エコシティ志木定例運営会議
- 22日(金) (仮)志木いきもの図鑑全体会議
- 23日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 24日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
- 24日(日) (仮)志木いきもの図鑑勉強会
- 25日(月) 志木小学校こどもエコクラブ

◆2月◆

- 7日(日) 冬の野鳥観察会
- 8日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 9日(火) (仮)志木いきもの図鑑推進会議
- 10日(水) 富士下橋美装化検討会議(志木市)
- 12日(金) 新河岸川流域川づくり連絡会
- 14日(日) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 14日(日) (仮)志木いきもの図鑑全体会議
- 15日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 18日(木) 企業とNPOの協働フォーラムで報告
- 18日(木) エコシティ志木定例運営会議
- 21日(日) 柳瀬川生き物ウォッチング
- 21日(日) (仮)志木いきもの図鑑勉強会

斜面林手入れへのお誘い

志木市の斜面林は2か所ありますが、これからの季節は、花が咲き乱れ、とてもきれいです。

西原ふれあい第三公園は、ロウバイから始まり、ミツマタ・ウメ・ユキヤナギ・ヤマブキ・サクラ・スミレ等々沢山の花が咲き続けます。また、こもれびのこみちも、サクラやミズキがとてもきれいに咲き、池の水面は花びらで埋まります。



(上) 西原ふれあい第三公園のユキヤナギ

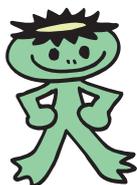


(左) こもれびのこみちのミズキ

こんな春の自然を見に来ませんか。通りやすい遊歩道、ゴミの無い公園にしましょう。

(青木明雄)

斜面林で待っています!



NPO法人 エコシティ志木